好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
—次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

▲お父さんと一緒に料理教室

ワークライフバランスの実現で 仕事と私生活の好循環を！

ワークライフバランスという言葉をご存じですか。最近、耳にする機会が多くなったこの言葉は、直訳すると「仕事と生活の調和」ですが、その目的は、「仕事」と子育てや親の介護、地域生活等の「仕事以外の生活」をうまく調和させ、相乗効果を及ぼし合う好循環を生み出すことです。男女共同参画社会の実現に向けた取り組みの一つとしても、今、このワークライフバランスの実現が積極的に進められています。

「仕事」は暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものですが、同時に家事や育児、近隣との付き合いなどの「生活」も暮らしに欠かすことができないものです。両方の充実があってこそ、人生の生きがい、喜びは膨らみます。また、生活の中で得た広い視野や知識・スキル・人脈は、仕事においても高い付加価値を生み、成果を上げることにもつながるでしょう。

しかし、現実の社会には、安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない、仕事に追われ心身の疲労から健康を害しかねない、仕事と子育てや親の介護との両立に悩むなど、仕事と生活の間で問題を抱える人が多く見られます。これらが、働く人々の将来への不安や豊かさが実感できない大きな要因となっており、社会の活力の低下や少子化・人口減少につながっているとも言われています。それを解決する取り組みが、ワークライフバランスの実現です。実現すると、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できるようになるでしょう。

実現には、国や地方公共団体による法整備・環境整備、それぞれの職場での風土改革や意識改革、働き方の見直しなど、取り組まなければならない課題がたくさんあります。それぞれの立場で考え、ともに行動していくことが大切です。まずは、あなた自身の仕事と生活の調和のあり方を考えてみませんか。

＊　＊　＊

◆**問合せ**　生涯学習課（☎22-5996）

異文化を学び国際色豊かな人間に

7月8日、姉妹都市アメリカ・レントン市に派遣される中学生親善使節団の結団式が行われました。西脇市とレントン市が姉妹都市提携を結んでから今年で44年目。中学生の派遣は昭和62年から続いており今回で27回目です。

今年は8月16日から11日間、13名の中学生がホームステイをしながら異文化を体験。結団式で中学生らは、「アメリカと日本の文化の違いを学びたい」「将来につながる何かを発見して帰って来たい」と目標を語ってくれました。

今年度派遣される13人の中学生

荻野由信さんが母校の西脇工で講演

西脇市出身の著名な方を講師に迎え、自身の経験や体験を後輩たちに伝える「帰郷～ふるさとDE語る～」。今回は駅伝の名門、立命館宇治高校陸上競技部専任監督の荻野由信さんが母校の西脇工業高校で講演。荻野さんは、昨年の全国高校駅伝女子優勝監督で、日本陸上界を代表する選手を多く育てられています。

「伸びるためには、目的・目標を持つ、人の話を素直に聞ける、何事にも前向き、感謝の気持ちを持つ、率先して動けることが大切」と指導者としての経験を踏まえて話されました。また、「ランナーが後ろを振り返るのは弱気になったとき。しっかり前を見て自分の目標に向かってチャレンジして欲しい」と後輩たちにメッセージを送られました。

講師の荻野由信さん

あぐりコラム 60

～自然の恵みを人から人へ～

市では「西脇ファーマーズブランド」を立ち上げ、市内産農産物の魅力向上、自然にやさしい安全・安心な農産物の生産拡大を目指しています。

西脇の伝統野菜を紹介します

大門のサトイモ

昨秋に旬菜館で販売されました。起源は不明ですが、大門の方はおいしさに惹かれ、他品種の種芋を買わず、収穫物の一部を種芋として冬場に保存し、作り続けられています。地蔵盆の早い時期から食べられ、子芋も孫芋もよくつき、親芋も食べられる実用的な品種です。きめが細かく白いのが特長で、上品な味です。

高嶋のタケノコ

今春、旬菜館でお客さんの間で話題になりました。明治中頃、山本宇之助さんが亀岡から竹を5本買い、荷車を引いて持ち帰ったのが栽培の始まりだとか。冬の竹林づくりが最も大切で、竹の根が詰まらないよう、草や落ち葉などの有機物とともに土を移動させます。竹の間も、日当たりや作業性を考え広く管理されています。高嶋のタケノコは日に当たる前に収穫され、アクが少なく、白く太く美しいことが自慢です。

＊　＊　＊

地域で作り続けられてきた伝統野菜が、近年、個性ある食材、文化、食育などの面から見直されています。

ほかにも伝統野菜がありましたら、農林振興課（市役所内線323）までお知らせください。

西脇市消費生活センター ☎22-3111（生活環境課内）

No.95　子どもによるクレジットカードの不正利用

クレジット会社から身に覚えのない高額請求が届いた…

カード会社に確認すると、オンラインゲームの利用料とのことで、子どもがゲームのアイテムを親のクレジットカードで購入していた、という相談が増えています。

無料をうたったオンラインゲームであっても、アイテム類を購入しないとゲームの進行が困難であったり、ゲームが一部制限されたりすることがあります。

未成年者が決済した場合、お小遣いを超えるゲーム代金は、未成年者取消の主張が可能です。しかし、アイテム購入に必要な携帯電話の暗証番号や、クレジット番号を親が子どもに教えていたり、知られていたりした場合は、親の管理責任が問われることになります。

携帯電話の暗証番号やクレジットカードの番号、セキュリティコードは、所有者がしっかり管理しましょう。

ほっとコラム 70

市長　來住壽一

岡之山美術館の新たな一歩

夏休み・盆休みを利用して、楽しい計画をお持ちの家庭や久しぶりに帰省される方との出会いを楽しみにされている方が多いことでしょう。暑さに負けず、思い出に残る夏にしてください。今月は、へその西脇織物まつりや市民盆踊り大会を開催し、花火を打ち上げます。涼みがてらにお越しください。

今回のコラムでは、岡之山美術館の新たな出発についてお知らせしましょう。

今、岡之山美術館では、世界を舞台に活躍されている写真家の荒木経惟（のぶよし）さんの企画展を開催中です。タイトルは、「花小説」。企画展オープニングに出席されるため、前日に来西されるとすぐ企画展をご覧になった荒木さんは、開口一番「いいね～。いい企画展になった」とおっしゃっていました。荒木さんは、「アラーキー」の愛称で親しまれており、丸い縁の黒メガネがトレードマーク。とても気さくで、ユーモアたっぷりの方です。

荒木さんは、若いころから「花・女性・都市」をモチーフにされてきました。今回の企画展もこのモチーフの一つの集大成だとか。壁には帯状の花の写真が並び、コーナーには母子像のモノクロ写真が…。

企画展を見て、私なりに、タイトルになっている「花小説」の「小説」の意味を感じることができました。ぜひご来館いただき、それぞれにご自分の「小説」を思ってください。

岡之山美術館は、横尾忠則さんの「ふるさと美術館」として昭和59年に開館。以来、横尾さんの企画展を56回、計29回の公開講座や公開制作を開催。ご存じのとおり、昨年11月に県立横尾忠則現代美術館がオープンし、横尾さんと調整する中で、横尾さんと親交の深い方々の企画展を開催することになりました。もちろん、横尾さんにも関わっていただきます。今回も、荒木さんをご指名いただき、ポスターも横尾さんのデザインです。

ふるさとの発展にご尽力いただいた横尾さんのご功績をたたえて、初の西脇名誉市民の称号を贈りました。皆さんと共に、いつまでも、横尾さんに感謝をこめて、顕彰していきましょう。お帰りの時は、お知らせします。